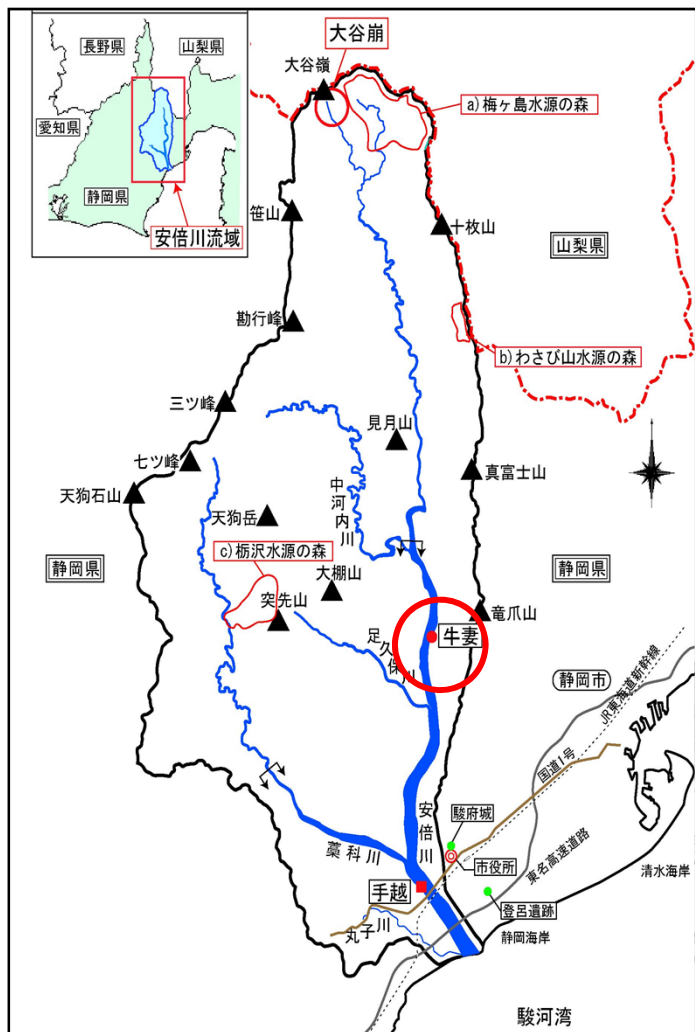


うしづま水辺の楽校 世話人会



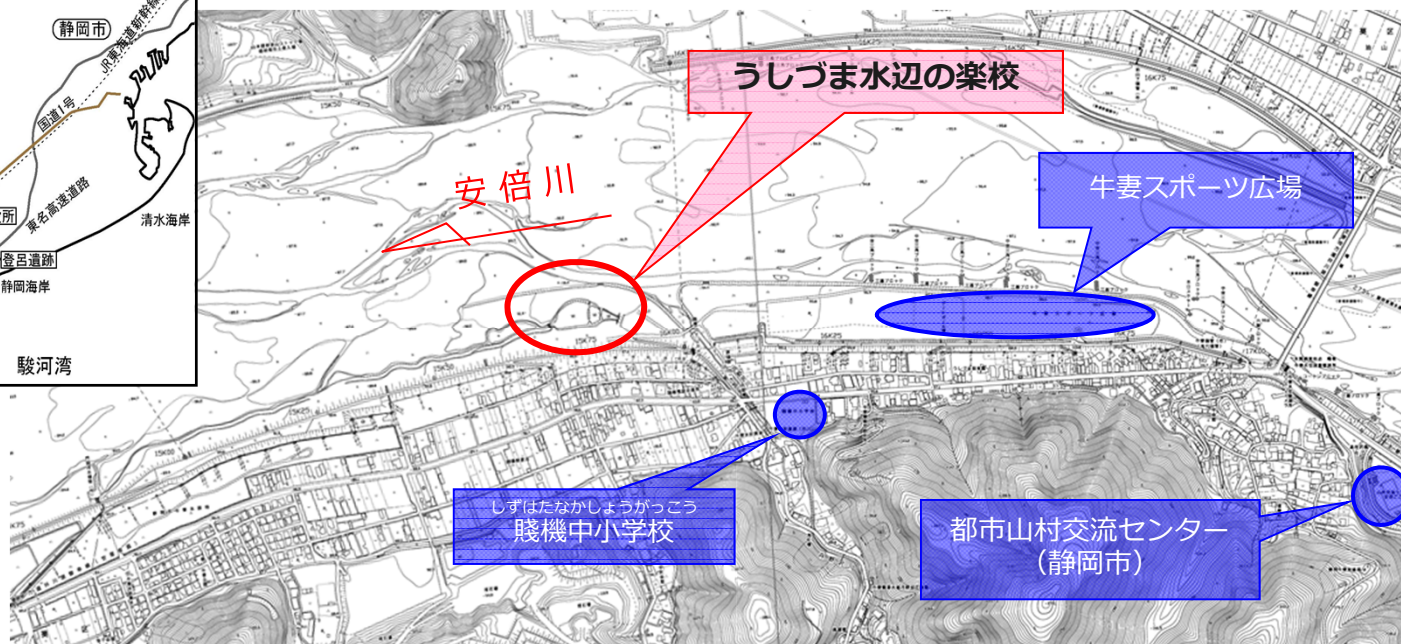
H28年 盛夏

1. うしづま水辺の楽校の概要 流域の概要



● 安倍川は、日本でも有数の急流河川であり、源流部には「大谷崩れ」を有しており、土砂流出が多い網状河川。

● 当該箇所は、直上流部に河川敷運動公園、堤内地側に小学校や保育園があり、スポーツだけでなく、水辺における活動の中心地となっている。



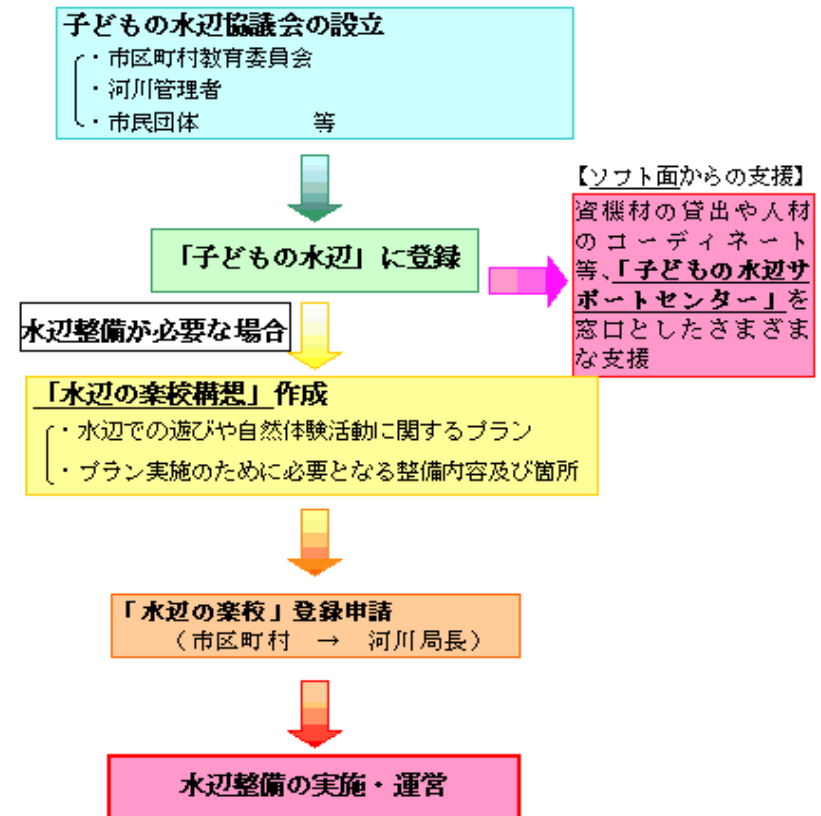
1. うしづま水辺の楽校の概要 事業の概要

●水辺の楽校プロジェクトとは

小中学校における完全学校週5日制や、「総合的な学習の時間」の実施などから、環境学習や自然体験活動のフィールドとして身近に存在し、自然環境が豊かな川への注目が集まっていることを背景に、国土交通省が1996年度から水辺での活動を安全かつ充実したものとするために必要な整備を行っているプロジェクト。

●かわまちづくりとは

地域活性化のために景観、歴史、文化及び観光基盤などの地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村及び地元住民と河川管理者の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す取組み



1. うしづま水辺の楽校の概要 整備の状況



2. うしづま水辺の楽校 世話人会の紹介

【うしづま水辺の楽校 世話人会】

幼少の頃から安倍川に親しみ安倍川の自然の豊かさ、大切さを体験し伝える活動を40年間続けている代表の川津さんを中心に、15名の「オヤジたち」と牛妻地区の方々の協力を得て活動している。

【目標として】

- 自分たちの生き甲斐として
- 将来を担っていく子どもたちの活動支援
- 静岡市の中山間地域「オクシズ」（奥静岡地域）の活性化

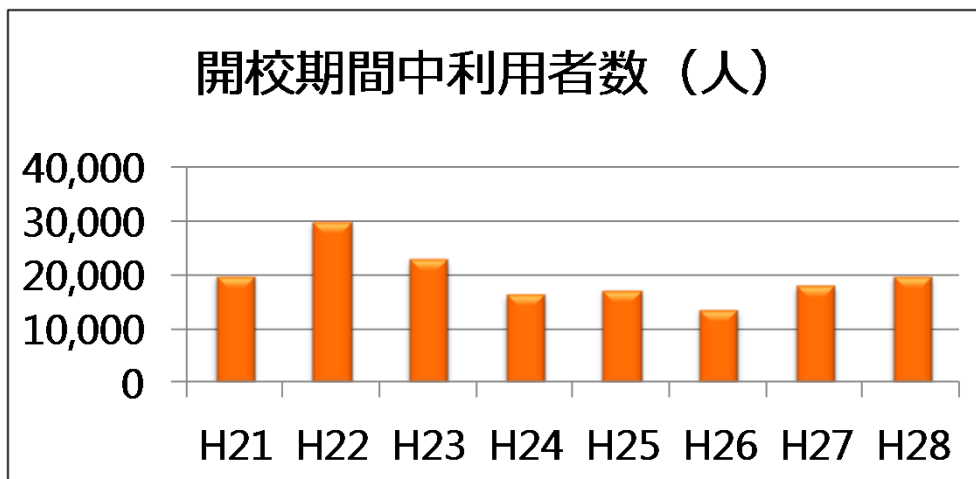
2. うしづま水辺の楽校 世話人会の紹介

【活動内容】

- うしづま水辺の楽校の管理・運営
敷地及び周辺の堤防・河川敷等の除草、清掃、整正
利用設備の準備・設置
施設の利用状況、安全確認
- 安倍川流木クリーンまつりの実行委員会
- 出前講座の開催
- 地元小学生とのアマゴの授精、飼育、放流体験
- ホタルの増殖

3. 管理状況 利用状況

●開校期間中は、毎年 約20,000名 の利用



- ・ 河川安全利用の啓発
- ・ 静岡市の中山間地域「オクシズ（奥静岡地域）」の活性化にも貢献

●開校期外では各種イベント及び地域の方の散策等で利用

- ・ 河川愛護活動の啓発
→ 安倍川流木クリーンまつりの会場
- ・ 周辺住民の憩い・安らぎの場を提供



3. 管理状況 利用状況

- 安全に自然と触れあえる場としての利用



アユやアマゴなどの生物観察

- 河川・環境教育の場としての利用



水辺の楽校利用者への環境教育

3. 管理状況 維持管理の現状

●維持管理に関する取り決め

静岡市との協定により「うしづま水辺の楽校 世話人会」の負担で実施

- ・水辺の楽校施設の維持管理
- ・水辺の楽校利用者の安全管理

●維持管理の具体的内容

施設の増設や環境整備

利用者への配慮から、隣接する河川堤防の除草も世話人会が積極的に実施（オフシーズンも実施）



休憩施設を手作り



不陸整正等の施設維持整備



水辺の楽校周辺の除草

4. 継続的な管理に向けた取り組み 維持管理の課題

今後の目標 継続的に多くの人に利用される
魅力あふれる水辺の楽校の維持

課題 ①いかに継続的に維持管理していくか

- ①維持管理の負担
- ②構成員の高齢化

対応策 ①施設等の維持管理のための継続方法の検討・工夫
(河川協力団体としてメリットを活用)
②世話人会の活動をPR(マスコミを利用)

4. 継続的な管理に向けた取り組み 維持管理の課題

①施設等の維持管理のため継続方法の検討・工夫

平成28年 1月

安倍川の河川協力団体に指定される。

- 維持管理に掛かる必要経費を補助
- 河川法99条により環境整備等の委託



<課題>

- ・静岡市との協議
- ・活動意欲の維持

4. 継続的な管理に向けた取り組み 維持管理の課題

②世話人会の活動をPR

アマゴの授精 小学生が体験 静岡・賤機中小学校



人工授精したアマゴの卵をかきまぜる小学生＝静岡市葵区牛妻

安倍川沿いにある静岡市葵区牛妻の市立賤機中小学校で17日、「アマゴの授精体験」があった。地元住民の協力で十数年前から続く貴重な授業だ。

魚好きでアマゴを養殖し、安倍川に放流している理容店経営川津通久さん(70)ら5人が、養育した体長30～40センチのメス10匹を持参。児童たちが塩水をはったザルの上でメスの腹を搾り出すように押すと、黄色い卵がとび出し、驚きの声が上がった。

児童たちは卵の上に、事前にしぼり出してあった精子をスポイトでたらしてかきまぜ、井戸水を引いている水槽に卵を移した。約2カ月で孵化、来春には稚魚を安倍川に放流する。

4年生の高木咲さん(10)は「親の体がヌルヌルして卵を出しにくかったけど、出せた。卵はさらさらしていた」。児童たちは住民による揚げたてのアマゴの空揚げをはおぼり、ご満悦の様子だった。(野口拓朗)



待ちました！今年も元気に開校 安倍川『うしづま水辺の楽校』

静岡市葵区牛妻の安倍川で自然体験や環境学習ができる「うしづま水辺の楽校」が7月23日(土)、開校した。この日、静岡市では暑さが広がり最高気温28℃と例年よりやや高め。それでも、心待ちにしていた家族連れら570人が詰めかけ、安倍川の清流水を堪能しながら水遊びや魚のつかみ取りなどを楽しんだ。

「水辺の楽校」は、安倍川を管理する国土交通省静岡河川事務所と静岡市が連携して8年前に整備。約1万平方メートルの敷地には、「魚と泳ぐエリア」「魚のつかみ取りエリア」「水遊び場エリア」など、全6エリアあり、水遊び場でも100㎡前後で、安倍川流床に生息するアユやアマゴなどが多く、地元ボランティア団体である世話人会(川津通久代表)が主体的な運営にあたり、昨年夏は約2万人が訪れた。

開校式で、川津さんは「この場所は魚の産卵力と水域があり整備されたもので、14名の世話人会の会員によって管理運営を行っている。ルールを守り、今日一日、楽しく遊んでほしい」と挨拶。この後、静岡市立賤機中小学校の秋山晴亮くんと丸目琉生君の2人が「いっぱい遊ぼうー1」とおどろく言葉。「川がき」たちは一斉に両手に飛び込み、親子で水中メガネで魚を観察したり泳ぎに乗りたりと、楽しい水遊びが一日中、続いていた。

夏休み！子どもが主役の『うしづま水辺の楽校』 楽しく遊び、安倍川の素晴らしさを感じてほしい！

開校式で世話人会員と子供たちを案内する来賓者たち

【静岡市議員 野田雅典・静岡市学区自治会連合会、岩崎道台自治会員】
うしづま水辺の楽校には、毎年、静岡市内外から多くの子どもたちが訪れてくれる。これは世話人会の方々が、ボランティアで整備してくれるおかげ。今年も、事故なく運営されることに期待し、皆さんはこうした努力に感謝しながら、楽しく遊んでほしい！

【静岡市建設部 伊東浩吉】
先日、国が管理する全国163河川で実施した2016年の水質調査結果が公表され、安倍川は「最も良好」とされる全国15河川の一つとして挙げられた。こうした結果が維持されるのは、安倍川に沿って年間数千人が活動する世話会の努力によって、大切に守られているおかげ。そんな世話の「安倍川」に誇りと愛着を持ち、夏休み期間、何度もこの施設を訪れ、自然体験がいっしょに味わってほしい。

【国土交通省静岡河川事務所 大庭直樹所長】
うしづま水辺の楽校は、これまで夏休みの期間に限定してオープンしているが、この施設にはホテル観光でもできる素晴らしい場所もある。今後、こうした施設間の魅力も取り込みながら、また、川の楽しさやゆるいさを学ぶ活動なども進め、世話会の方々と一緒に楽しみながら、1年中楽しんで学べる楽校にしていきたい。

事務所HPで開校を紹介

記者発表

静岡新聞 平成28年7月24日(日) 朝刊



「うしづま水辺の楽校」開校

静岡市葵区牛妻の安倍川河川敷に23日、自然体験施設「うしづま水辺の楽校(がっこう)」が開校し、多くの親子連れが水遊びを楽しんだ。8月31日まで、入場無料。

開校式では、いずれも賤機中小3年の秋山晴亮君と丸目琉生君が「ルールを守り安全に楽しみたい。いっぱい遊ぼう」と元気にあいさつした。子どもたちは一斉に池に入り、水に顔をつけて魚を観察したり、泳いだりした。滑り台やボートなども楽しめ、にぎやかな声を響かせた。

同施設は国土交通省静岡河川事務所と市が整備し、地元ボランティアの世話人会が管理運営に当たる。毎年開校し、昨年は県内外から約2万人が訪れたという。

5. 河川協力団体としての今後の取り組み

【今後の取り組み】

- ・「堤防除草の委託」「資機材の貸与」等について、希望する内容をまとめ、可能性を検討する。
- ・他の河川協力団体の活動を参考として、「河川協力団体」としての当方の取り組みを検討する。